

大田革新懇 蒲田駅西口で宣伝 35人参加 高市政権の戦争する国づくり反対！国民の生活・権利を守ろう！



大田革新懇は12月4日午後、蒲田駅西口で、「高市政権の戦争する国づくり反対！国民の生活・権利を守ろう！」と呼びかけ、宣伝行動をしました。労組、業者、九条の会、弁護士などが次々にマイクを握りました。高市早苗首相の

特定の国を名指しして戦争を行うことがあり得ると公言したことに抗議しました。また、自民党・維新政権は衆院国會議員定数削減を提案。与野党で決まらない場合には、1年を期限に削減を実行すると言うのは、憲法無視、民主主義に対する暴挙と告発しました。

この日の宣伝行動には、各団体・個人35人が参加し、「大軍拡に暴走する高市内閣と自民・維新政権」そんなことより「物価対策、福祉・介護・医療にまわしてよ！」というチラシ配布と憲法署名を訴えました。宣伝中に声をかけてきた70代の女性は、高市政権の戦争への危険な動きに恐怖を語り、「公明党が政権離脱してよかったです」などと話していました。高校生の男性は「署名するのに内容が分からぬから」と署名用紙をうけとり、帰りました。チラシは151枚配布、署名は11筆いただきました。大田革新懇は「排外主義」と表裏にある「スパイ防止法」など「日本の反動化プログラム」を止め高石政権を終わらせるには今声をあげることが大事ですと革新懇への参加を呼びかけています。

大田母親連絡会 12.8 平和を守る母親全国連鎖行動 武器はいらない 核もいらない



大田母親連絡会は、太平洋戦争開戦から84年の12月8日に、「武器はいらない 核もいらない 12.8 平和を守る母親全国連鎖行動」を蒲田駅西口広場で行いました。

召集令状を模した「赤紙ビラ」を配りながら、各団体がリレートーク。「この召集令状が来たら否が応でも戦地に行かざるを得ない、あの時代に二度と再び戻させないの声をあげましょう。」「戦争を起こしたら終わらせるのは大変だからこそ、憲法9条を活かした平和外交を！」と訴えました。「自分は元教師、教え子を再び戦場に送らせないの気持ちで

(2ページに続く)

す。」「高市さんはおかしい。」「天皇がもっと早く戦争終結を決断していたら、東京大空襲も原爆投下のなかつた。自分が生きているうちに戦争になってほしくない」など、平和への思いや高市政権の大軍拡への危険な道を憂う思いを言葉にする方、若い方を含め「赤紙」の受け取りも多かったです。逆にこの行動に否定的な発言をしていく方や日本共産党バッシングをする方もいましたが、あちらこちらで対話する姿が見られました。参加して「赤紙」を持ち帰り、お孫さんに見せ、「これが届いたらいやでも戦争にいかされるんだよ。」と話したら驚いて聞いていたとの報告がありました。戦争の準備より平和の準備をの思いを強くした1時間でした。参加者6団体23人。「赤紙チラシ」200枚配布。日本政府に核兵器禁止条約の批准を求める署名16筆でした。